

5. 「子育てするなら富田林」を充実するために

(3) 新給食センターについて

- ① 他市の給食センターには、災害時に対応できる設備を考慮されているが、本市ではどうか
- ② ローリングストックできる食材で「防災献立」の給食を
- ③ 給食の配送車にドライブレコーダーを設置してはどうか

【答弁】

それでは、ご質問の5. 「子育てするなら富田林」を充実するためにの(3)の①から③につきまして順次お答えいたします。

初めに①についてでございますが、新給食センターでは、太陽光発電設備及び自家発電設備を備えております。太陽光発電設備については、定期的な更新が必要となる直流電源設備を設置していませんが、日中の通常電力にも使用することができ、使用電力のピークを抑えランニングコストを低減することができます。非常時などの災害時には、日中に限りますが、1階荷受け室や下処理室及び2階事務所の照明機能の維持が可能になることと、太陽光発電装置から直接使用できるコンセントも備えております。非常時に使用を想定している自家発電装置は、給食センターの1階調理場及びトイレの照明や消化ポンプ及び廃水ポンプなどが3日間稼働できる燃料を備え、燃料を補充することで連続運転も可能となっております。

また、厨房設備としまして、固定式の2ウェイリンクガス回転釜を2台設置しており、LPガスボンベさえあれば手動で切り替えができ、自家発電装置と合わせ、夜間でも照明を利用した炊き出し等が可能となるよう配慮いたしております。

更に、大災害時での給食センターの役割として、東日本大震災や熊本地震を経験した結果から、厨房施設の活用と合わせて給食センターに日頃から備えているラップ、衛生手袋などの消耗品類やアルコール、次亜塩素酸ソーダなどの消毒薬剤も活用できるものと考えております。

次に②につきましては、給食に使用する食材については、喫食している児童の保護者から給食費として納付していただいている財源からの購入となっております。また、備蓄食材としては缶詰や乾物などが考えられますが、賞味期限内に使用することが決められており、大阪府から一括購入している精白米についても、当日使用する量を基準に、先入れ先出し法によりストックを最小限にし、各学期の終わりには在庫を持たないように使用しております。以上のように、各食材の保管や調整については課題もございますが、今後、非常時など想定した対応ができるか、防災を意識するメニューなどの研究も行ってまいりたいと考えております。

次に③でございますが、給食の配送については、調理及び配送業務を含め委託契約を行っております。委託契約時には、調理及び配送業務について詳細な仕様書を締結しており、その中で、配送車に関しては、本市が承認した車両を用意することと規定しております。平成30年度から使用する配送車には、事故や犯罪にも役立つドライブレコーダーの設置を提案してまいります。

以上でお答えとさせていただきます。